

千年の都の水の文化

認定理由

三方を山に囲まれ、鴨川や桂川などの河川が流れる京都において、人々は度重なる水害と闘いながらも、良質で豊富な水の恩恵と平安遷都以前から発達させてきた用水技術等により、暮らしを育んできた。さらに、千年の都として、長らく日本の政治、文化、宗教の中心地として栄える中、野菜、酒といった食文化のほか、庭園や茶の湯、京友禅などの伝統文化、産業を育んできた。人々に命と豊かな文化、産業をもたらしてきた水に対する感謝の気持ちとその神聖な力に対する信仰心は、今も様々な形となって残っており、人々の心を豊かにしている。

主な構成遺産

河川



鴨川

悠久の歴史の中、380もの河川が流れる京都では、水とともに文化を育む一方、度重なる水害と闘ってきた。白河法皇の「天下三不如意」にあげられるほど暴れ川であった鴨川は、1935年の洪水を機に大規模な改修を行っている。

運河



高瀬川

角倉了以が開削。高瀬舟を用い、市中と伏見間の物流に利用。物の積み下ろしと舟の方向転換の場である舟入には問屋が置かれ、材木町、石屋町、塩屋町などの町名がついた。京都大阪間の舟運の拠点であった伏見港の発展にもつながった。

京料理



水温・水質が1年を通じてほとんど変化しない井戸水は食品加工に適しており、豆腐、湯葉、生麩などの生産が盛んである。9割が水できている豆腐など、水の美味しさが味を左右する食材のほか、出汁をベースに、川魚、京野菜など旬の食材を生かした京料理は、良質な水が豊富な京都だからこそ発達した。

京野菜



寒暖の差が大きい気候と良質の水、肥沃な土壌といった自然環境にも恵まれ、懐石や精進料理の広まりから、鮮度のよい美味しい野菜への需要が高まる中、生産者の創意工夫により育まれた。

用水



洛西用水

5世紀後半、秦氏が農業を興し、治水、灌漑のため、堰や用水路がつくられたと伝わる。江戸初期には角倉了以が保津川開削と同時に一の井堰(野大堰)の整備を行ったとされる。

名水



松尾大社の亀の井

北野天満宮の梅香水、梨木神社の染井、松尾大社の亀の井、御香宮神社の御香水、公家の邸宅にあったとされる滋野井、武野紹鷗の庵にあった菊水井の跡、源氏の六条堀川邸にあった佐女牛井の跡など、市内各所に名水の井戸やその名残がある。

滝



音羽の滝

京都盆地の周囲の山際の断層線にある滝では、納涼や滝行が盛んに行われた。清水の音羽の滝、愛宕の清滝(空也の滝)等が有名。

清酒



良質の地下水に恵まれ、古くから酒づくりが行われてきた。江戸時代に伏見港が整備されてからは、伏見でも盛んとなった。明治の鉄道開通以降、全国に運ばれ、その名が知られるようになった。

京菓子



宮中や公家、寺社における行事や、もてなしと季節感を重んじる茶道の中で洗練されるなど、米や小豆、栗などの豊かな産地と良質の水にも恵まれながら、多彩な発展をとげた。

池



深泥池

池や湿地には、かつて大きな湖であった京都盆地の名残が見られ、生物多様性を支える。深泥池の生物群集、大田ノ沢のカキツバタ群落は国の天然記念物。古代に灌漑用水として造られ日本三沢の一つとなった広沢池、干拓工事により農地となっている巨椋池なども著名。

湧水



神泉苑

神泉苑は、清水が湧き出す神泉があることが名称の由来。空海が勧請したと伝えられる雨と水の神「善女龍王」が祀られている。志明院は、鴨川の水源地である湧水を敬い、水神を祀り、清浄な用水を祈願したと伝わる。他にも市内に多くの湧水がある。

信仰



貴船神社

「木生根」や「気生根」等とも記され、樹木生い茂る山が名称の由来といわれる。貴船神社は水神を祀り、祈雨・止雨の祈禱所で、水に関わる生業者が参詣する。



手水舎

神社や寺院の参道脇や社殿脇にある手水舎は、身を清める禊の場所。しきたり通りに手水を使ってから参拝したい。

茶の湯



良質の水にも恵まれ、京都の内外に優れた茶の産地があったことから、京都には茶の湯文化が発達。江戸時代には煎茶が普及し、京都独特の茶の文化が日常生活に定着してきた。

京友禅



華麗な絵模様の染物産業が発達したのは、宮崎友禅による技術革新と糊を洗い流すための豊富な水のおかげと言える。

注：上記の構成遺産は一例で、上記以外にも市内には多くの水にまつわる文化遺産がある。

画像提供：松尾大社、清水寺、神泉苑、貴船神社